

機械器具 25 医療用鏡 一般医療機器 単回使用クラスI 処置キット JMDN コード 33961001
 (自然開口向け単回使用内視鏡用非能動処置具 JMDN コード 38819001)

ディスポーザブルガイドシースキット K-404

再使用禁止

【禁忌・禁止】

- 1.内視鏡の角度をかけた状態で、生検鉗子 (FB-231D) を引き抜かないこと。[生検鉗子 (FB-231D) の操作ワイヤがカップからはずれるおそれがある。操作ワイヤがはずれると操作ワイヤの一部が破損して患者体内に脱落するおそれがある。また、操作ワイヤがはずれたまま使用すると、はずれたワイヤが突出し、出血、粘膜損傷につながるおそれがある。]
- 2.再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

構造・構成ユニット

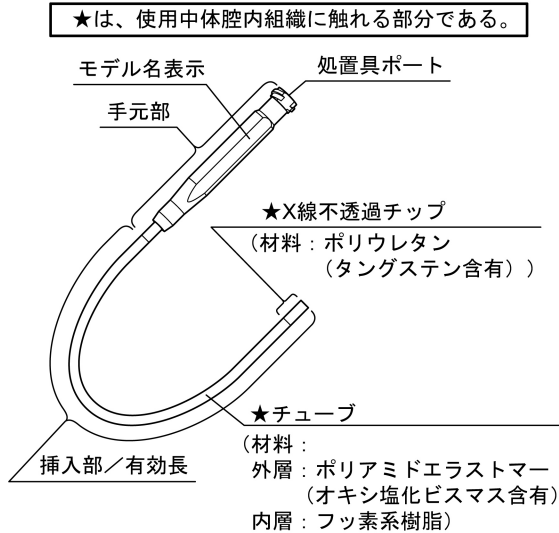
1.構成

ディスポーザブルガイドシースキットは、ディスポーザブルガイドシース、ディスポーザブル生検鉗子、US ストッパ、ET ストッパから構成される。

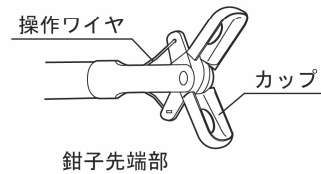
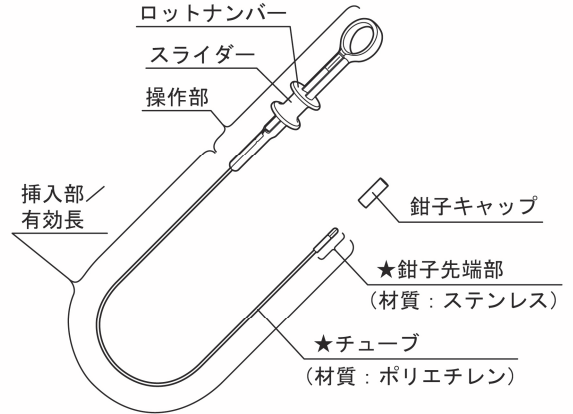
| | |
|--------|---|
| モデル名 | K-404 |
| ガイドシース | SG-401C |
| 生検鉗子 | FB-231D |
| ストッパ | US ストッパ1個 ET ストッパ白1個 ET ストッパグレー2個 |

2.各部の名称

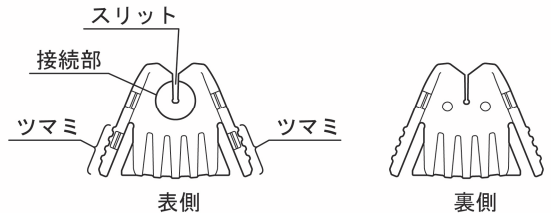
- ・ディスポーザブルガイドシース SG-401C



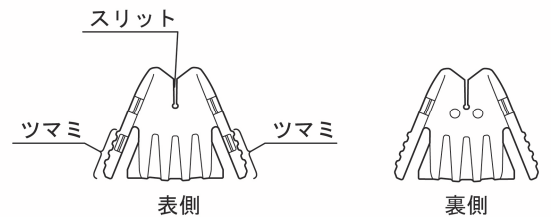
- ・ディスポーザブル生検鉗子 FB-231D



- ・US ストッパ



- ・ET ストッパ白、ET ストッパグレー



取扱説明書を必ずご参照ください。

3.仕様

・ガイドシースキット

| | |
|-----------------------|--|
| モデル名 | K-404 |
| 組み合わせ可能な 当社超音波プローブ | UM-S20-20R UM-S30-20R |
| 組み合わせ可能な 当社誘導子 | CC-6DR-1 CC-220DR |
| 組み合わせ可能な当社 吸引生検針 | NA-403D-2021 |
| 組み合わせ 可能な当社 内視鏡 | 有効長 チャンネル 径 600mm 以下 Φ2.8mm 以上 |

・ガイドシース

| | |
|-----------|---------|
| モデル名 | SG-401C |
| 最大外径 (mm) | Φ2.54 |
| 有効長 (mm) | 1050 |

・生検鉗子

| | |
|-----------|---------|
| モデル名 | FB-231D |
| 最大外径 (mm) | Φ1.9 |
| 有効長 (mm) | 1150 |
| カップ形状 | 標準 |
| スイング機構 | あり |

・US ストツパ、ET ストツパ

| | US ストツパ | ET ストツパ 白 | ET ストツパ グレー |
|---------------------------|--|--|------------------------------------|
| 色 | ダークグレー | 白 | グレー |
| 組み合わせ 可能な当社 超音波プローブ | UM-S20-17S UM-S20-20R UM-S30-20R | — | — |
| 組み合わせ 可能な当社 処置具 | — | SG-400C FB-433D BC-205D-2010 CC-6DR-1 CC-220DR NA-403D-2021 | SG-401C FB-231D BC-202D-2010 |

詳細は、『取扱説明書』の「7 仕様」を参照すること。

作動・動作原理

- 1.ガイドシースは、内視鏡、処置具、超音波プローブと組み合わせ、処置具、超音波プローブを目的の部位に誘導する。
- 2.生検鉗子は、スライダを先端側へ動かすとカップが開き、手元側へ動かすとカップが閉じる。スライダを押しカップを開き、目的の組織に開いたカップを押し付け、カップを閉じることにより、目的の組織を採取できる。

【使用目的又は効果】

使用目的

本品は、当社指定の内視鏡と組み合わせて、内視鏡用処置具および超音波プローブを呼吸器内の対象領域に誘導し、組織または細胞を採取することを目的としている。

【使用方法等】

- 1.点検および準備
滅菌パックの点検、ガイドシース、生検鉗子の外観の点検、作動の点検をする。
- 2.US ストツパの準備（超音波プローブを組み合わせで使用する場合）
・超音波プローブへの取り付け
1)超音波プローブ挿入部をガイドシースの処置具ポートから挿入し、超音波プローブ先端がガイドシース先端から少し出る位置まで挿入する。
2)US ストツパのツマミを把持してスリットを開き、ガイドシース処置具ポート付近の超音波プローブ挿入部に、US ストツパをスリットの奥まで挿入して取り付ける。
3)US ストツパの接続部をガイドシースの処置具ポートに押し込んで固定する。

- 4)超音波プローブ先端がガイドシース先端から少し出る位置になるよう超音波プローブの挿入部を調整する。
- 5)超音波プローブに取り付けたまま、US ストツパをガイドシースの処置具ポートからはずす。
- 6)超音波プローブを US ストツパと一緒に、ガイドシースから引き抜く。

3.ET ストツパの準備（生検鉗子、細胞診ブラシ、誘導子および吸引生検針などの処置具を組み合わせで使用する場合）

- ・生検鉗子、細胞診ブラシ、誘導子、吸引生検針への取り付け
1)生検鉗子、細胞診ブラシ、誘導子および吸引生検針などの処置具挿入部をガイドシースの処置具ポートから挿入し、処置具先端がガイドシース先端から少し出る位置まで挿入する。
2)ET ストツパのツマミを把持してスリットを開き、処置具挿入部のガイドシース処置具ポートに突き当たる位置に ET ストツパをスリットの奥まで挿入して取り付ける。
3)処置具をガイドシースから引き抜く。
4)使用する処置具すべてについて、上記 1)~3)を行う。

・ガイドシースへの取り付け

- 1)超音波プローブまたは処置具に取り付けたストツパがガイドシースの処置具ポートに突き当たる位置まで、超音波プローブまたは処置具をガイドシースに挿入する。
- 2)ET ストツパのツマミを把持してスリットを開き、ガイドシース挿入部の先端から 1m 程度の位置に ET ストツパをスリットの奥まで挿入して取り付ける。

4.ガイドシースへの処置具の挿入および内視鏡へのガイドシースの挿入

- (1)超音波プローブまたは処置具に取り付けたストツパがガイドシースの処置具ポートに突き当たる位置まで、超音波プローブまたは処置具をガイドシースに挿入する。
- (2)超音波プローブを使用する場合には、US ストツパの接続部をガイドシースの処置具ポートに固定する。
- (3)ガイドシースの挿入部先端が内視鏡の視野に入るまで挿入する。
- (4)内視鏡、超音波画像、X 線透視下で確認しながら、挿入部先端をゆっくりと目的部位まで挿入する。

5.ET ストツパによるガイドシースの位置決め

ガイドシースに取り付けた ET ストツパをガイドシース挿入部の鉗子栓に突き当たる位置に移動させる。

6.生検鉗子による組織採取（生検鉗子を使用する場合）

- (1)目的の組織の採取をするために、内視鏡のアングルを操作したり、生検鉗子を必要な長さまで挿入したりする。
- (2)スライダを押しカップを開き、目的の組織に押し付ける。
- (3)スライダを引き、目的の組織を採取する。

7.ガイドシースおよび内視鏡からの引き抜き

- (1)超音波プローブを使用している場合には、US ストツパをガイドシースの処置具ポートからはずす。
- (2)超音波プローブまたは処置具をガイドシースから引き抜く。
- (3)ガイドシースを内視鏡から引き抜く。

8.廃棄

本製品の使用が終了したら、適切な方法で廃棄する。

詳細は『取扱説明書』の「8 保管」、「9 使用法」、「10 廃棄」を参照すること。

組み合わせて使用する医療機器については、【形状・構造及び原理等】の「3.仕様」を参照すること。

【使用上の注意】

重要な基本的注意

一般的事項

- (1)内視鏡の視野が確保されていない状態で、本製品を内視鏡に挿入しないこと。また、内視鏡の視野内または X 線透視下で挿入部先端が確認できていない状態で、本製品の一連の操作をしないこと。
- (2)挿入部先端を内視鏡から突き出している状態で、急激な内視鏡のアングル操作をしないこと。
- (3)無理な挿入、および急激な挿入はしないこと。また、抵抗が大きくて挿入が困難な場合は、無理なく挿入できるところまで、内視鏡のアングルを戻すこと。

取扱説明書を必ずご参照ください。

- (4)無理な力で挿入部先端を体腔内の組織に押し付けないこと。また、無理な力で挿入部先端を体腔内に押し付け、大きなサンプルを採取しないこと。
- (5)ガイドシースを内視鏡から、また超音波プローブや処置具をガイドシースから勢いよく引き抜かないこと。
- (6)生検鉗子（FB-231D）の操作ワイヤがカップからはずれた場合、直ちに使用を中止すること。操作ワイヤがカップからはずれた場合、スライダーに抵抗感がなくなる、または引っ掛かりが出るなど操作感が変わることがある。操作感が変わった場合は操作ワイヤがカップからはずれていないことを確認すること。また、内視鏡に生検鉗子を挿入後、操作ワイヤがはずれた場合、スライダーを手元まで引き、生検鉗子を内視鏡の先端近傍まで引き込み、生検鉗子と内視鏡と一緒に、内視鏡画像を見ながら体腔内を傷付けられないよう注意しながら引き抜くこと。さらに、患者体内に操作ワイヤの一部が脱落していないことを確認すること。

詳細は『取扱説明書』の「8 保管」、「9 使用法」、「10 廃棄」を参照すること。

不具合

その他の不具合

機器の破損、機能の低下

有害事象

その他の有害事象

感染、組織・皮膚の炎症、出血、粘膜損傷、人体への傷害、生検鉗子（FB-231D）の操作ワイヤの脱落

【保管方法及び有効期間等】

保管方法

詳細は『取扱説明書』の「8 保管」を参照すること。

有効期間

滅菌パックに表示された使用期限を確認すること。
（自己認証（当社データ）による）

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元：

オリンパスメディカルシステムズ株式会社
〒192-8507 東京都八王子市石川町 2951

お問い合わせ先
TEL 0120-41-7149（内視鏡お客様相談センター）

取扱説明書を必ずご参照ください。